

広域産業振興局農林水産部
令和7年9月23日



1. 経緯

昨今の米の価格高騰を受け、これまで以上に農産物の安定生産が求められているところ、近畿・中国・四国地方では、平年よりも約3週間早い梅雨明けとなるなど、記録的な高温・少雨となっており、さらに斑点米カメムシ類による農作物被害も発生するなど、多大な影響が出ている。

各地域において、ポンプ設置による用水確保や斑点米カメムシ類の防除等の対策などが行われているが、農業従事者等の負担は非常に大きい。

以上の背景と第180回関西広域連合委員会(R7.8.28)での議論を踏まえ、関西広域連合として、国に対して対策支援の拡充などを求める緊急要望活動を実施。

2. 要望活動

日 時:令和7年9月11日(木) 13:15~13:30

要望先:渡邊 毅 農林水産事務次官

要望者:友井 泰範 副委員(和歌山県副知事)

要望書:別添のとおり

3. 要望概要

- (1) 水利施設管理強化事業(渇水・高温対策)について、梅雨明けから7月着手分を遡及して補助対象とすること
- (2) 米の需給及び価格の安定に向けた斑点米カメムシ類臨時特例対策について、注意報が発出されている都道府県の範囲では農業者の判断による防除も補助対象とすること



高温・渇水等による農業被害対策に 関する緊急要望

関西広域連合

令和7年9月

高温・渇水等による農業被害対策に関する緊急要望

昨今の米の価格高騰を受け、これまで以上に農産物の安定生産が求められている中、近畿・中国・四国地方では、平年よりも約3週間早い梅雨明けとなるなど、記録的な高温・少雨となっている。

また、斑点米カメムシ類については、関西広域連合域内の6府県において病虫害発生予察注意報が発出されるなど、平年に比べて発生量が多く、品質の低下や減収が懸念されている。

このような状況の中、構成府県においては、農協などと連携し、栽培上の留意点や防除の徹底等の指導を行い、可能な限りの対応を講じているが、用水確保や防除等にかかる農業者の負担が大きくなっている。

国において国庫補助事業の緊急・臨時的な対応をいただき感謝しているところであるが、農産物の干ばつ等の被害防止や今後の安定的な農産物の生産体制の確保に向けて、さらなる支援が不可欠である。

については、関西広域連合として下記のとおり要望する。

記

1 農業水利施設への干ばつ応急対策支援の拡充

応急ポンプの設置・運転、井戸の設置などの用水確保の取組について、7月が記録的な少雨であったため、梅雨明け（6月27日）から7月着手分も遡及して国庫補助事業の対象とすること。

また、今後も気候変動による農作物への影響を鑑みて、継続して予算を確保するとともにトリガー発動型の恒常的な支援制度の構築を検討すること。

2 斑点米カメムシ類に対する被害防止対策支援の拡充

斑点米カメムシ類については、斑点米や不稔被害により減収となり農業経営への影響が大きく、速やかな追加防除が必要である。

このため、自治体職員による捕虫網でのすくい取り調査で防除水準を超える斑点米カメムシ類の生息確認が国庫補助事業の要件とされているが、適期に防除を行うためにも、注意報が発出されている都道府県の範囲では農業者の判断で実施する防除を事業の対象とすること。

また、今後も米の安定生産に甚大な被害をもたらす恐れがある場合は、今回のような緊急・臨時的な措置を講じること。

令和7年9月11日

関西広域連合

広域連合長	三日月 大 造	(滋賀県知事)
副広域連合長	西 脇 隆 俊	(京都府知事)
副広域連合長	吉 村 洋 文	(大阪府知事)
副広域連合長	久 元 喜 造	(神戸市長)
委員	齋 藤 元 彦	(兵庫県知事)
委員	山 下 真	(奈良県知事)
委員	宮 崎 泉	(和歌山県知事)
委員	平 井 伸 治	(鳥取県知事)
委員	後藤田 正 純	(徳島県知事)
委員	松 井 孝 治	(京都市長)
委員	横 山 英 幸	(大阪市長)
委員	永 藤 英 機	(堺市長)